

論壇

「心中の静かな怒り」増幅

イギリスでのEU（欧州連合）からの離脱の騒動、欧州各国内でのEUへの反対を叫ぶ政治勢力の拡大、米国の共和党の大統領候補のトランプ氏が打ち出しているさまざまな政策などには、共通点があるように思える。グローバル化を嫌って内にももろろという姿勢（いわゆる内向きの姿勢）、イスラムや移民などを排除しようとする姿勢、既存の政治への強い不信感などである。

ある米国の識者は、米国でのこのような事態を「静かな怒り」という表現で説明している。多くの

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

人が心の中の静かな怒りを増幅させている。イスラム教徒、移民、貿易自由化、ウォール街、既存の政治家などへの怒りだ。こうした怒りが、大きな政治勢力となっている。

トランプ氏は職業政治家ではない。移民排除や貿易への規制を声高に訴えている。本人は金持ちかもしれないが、人々のお金を集める

人が心の中の静かな怒りを増幅させている。イスラム教徒、移民、貿易自由化、ウォール街、既存の政治家などへの怒りだ。こうした怒りが、大きな政治勢力となっている。

トランプ氏は職業政治家ではない。移民排除や貿易への規制を声高に訴えている。本人は金持ちかもしれないが、人々のお金を集める

「内向きの姿勢」政治勢力拡大

て大もうけしながら政府から膨大な救済資金を獲得した金融業の人ではない。トランプ氏もこうした自分の立場を認識していて、移民排斥や貿易自由化反対を声高にとなえ、アメリカ・ファーストと叫ぶ。英国で女性の国会議員を殺したと言われる容疑者が、英国ファ

こうした流れを見て、1930年代の世界大恐慌の時代を連想するのは、私だけではないはずだ。当時の世界経済は深刻な不況であった。各国は内向きの政策に走り、貿易を制限していった。ブロック経済化である。これで貿易やグローバルマネーの動きが縮小して、世界経済はさらに悪化することになる。

こうした流儀を見て、1930年代の世界大恐慌の時代を連想するのは、私だけではないはずだ。当時の世界経済は深刻な不況であった。各国は内向きの政策に走り、貿易を制限していった。ブロック経済化である。これで貿易やグローバルマネーの動きが縮小して、世界経済はさらに悪化することになる。

目今の経済問題解決を

こうした厳しい経済状況の中で、国民は既存の政治家に強い不満を抱くようになる。ドイツでは既存の政治家ではないヒトラーが、ドイツ純血主義（つまり外国人を排斥する思想）を掲げて出てきた。人々はヒトラーにドイツを変えたいことを期待したのかもしれない。しかし、その結果がどんなにひどいことであつたかは言うまでもない。

ヒトラーとトランプ氏を比較するのは適切ではないかもしれない。ただ、排外思想、既存の政治への不満など、その背景には似た点があるということを言いたいだけだ。政治は経済に大きな影響を及ぼすのかもしれないが、経済も政治の流れを変える上で重要な役割を果たしているのだ。

今の世界の政治状況がどのような方向に進んでいくのか、今の時点で予想することは難しい。ただ、より好ましい政治に向かうためにもっとも有効な方法は、貧困や格差や経済的停滞という、目今の経済問題を解決することであるだろう。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。